TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　615語

The Story of the First Emeralds

さいしょのエメラルドのおはなし

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Raybrite

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　海の底にある、だれも見たことのない緑の石のつぼ。魔法の歌でよびよせたインドの王さまの手に、ぶじにとどくのでしょうか。



In the days of long ago there was a time when there were no emeralds on the earth. Men knew where to find other precious stones. They could get pearls and diamonds, but no one had ever seen an emerald, because the emeralds were hidden away in the bed of the sea, far down below the waves.

The king of India had many precious things, and he was always eager to get others. One day a stranger stood before his door, and when the king came out he cried, "O king, you have much that is precious. Do you wish to have the most beautiful thing in earth, air, or water?"

"Yes, in truth," said the king. "What is it?"

"It is a vase made of an emerald stone," answered the stranger.

"And what is an emerald stone?" asked the king.

"It is a stone that no one on earth has ever seen," said the stranger. "It is greener than the waves of the sea or the leaves of the forest."

"Where is the wonderful vase?" cried the king eagerly.

"Where the waves of the sea never roll," was the answer, but when the king was about to ask where that was, the stranger had gone.

The king asked his three wise men where it was that the waves of the sea never rolled. One said, "In the forest;" another said, "On the mountain;" and the last said, "In the sea where the water is deepest."

The king thought a long time about these answers of the wise men. At last he said: "If the emerald vase had been in the forest or on the mountain, it would have been found long before now. I think it is in the deepest water of the sea."

This king of India was a great magician. He went to the sea, and there he sang many a magical song, for he said to himself, "I have no diver who can go to the bed of the sea, but often magic will do what a diver cannot."

The king of the world under the water owned the beautiful vase, but when he heard the songs, he knew that he must give it up. "Take it," he said to the spirits that live in the deepest water. "Bear it to the king of India. The spirits of the air will try to take it from you, but see that it goes safely to the king whose magic has called it from the sea."

The spirits of the sea rose from the waves bearing the precious vase.

"It is ours, it is ours," cried the spirits of the air. "The king of India shall never have it." The spirits of the air and the spirits of the water fought together. "What a fearful storm!" cried the people on the earth. "See how the lightning shoots across the sky, and hear the thunder roll from mountain to mountain!" They hid themselves in terror, but it was no storm, it was only the spirits fighting for the emerald vase.

One of the spirits of the air bore it at last far up above the top of the highest mountain. "It is mine," he cried. "Never," said a spirit of the water, and he caught it and threw it angrily against the rocky top of the mountain. It fell in hundreds of pieces.

There was no vase like it in the east or the west, the north or the south, and so the king of India never had an emerald vase; but from the pieces of the vase that was thrown against the mountain came all the emeralds that are now on the earth.

ずっとむかし、地上にエメラルドがひとつもない時代がありました。人々は、ほかの宝石がどこにあるかは知っていました。しんじゅやダイヤモンドは手に入りましたが、エメラルドを見た人はだれもいませんでした。エメラルドは、波のずっと下の海の底にかくれていたからです。

インドの王さまはたくさんの宝物を持っていて、いつももっとほしいと思っていました。ある日、知らない人が王さまの戸口に立ち、王さまが出てくると、さけびました。「王さま、あなたはたくさんの宝物をお持ちですね。陸と空と水の中で、いちばん美しい物をほしくはありませんか。」

「もちろん、ほしいとも」と王さまは言いました。「それは何だ？」

「エメラルドの石でできたつぼです」と、知らない人は答えました。

「エメラルドの石とは何だ？」と王さまはたずねました。

「地上ではまだだれも見たことのない石です」と、知らない人は言いました。「海の波よりも、森の葉よりも緑色なのです。」

「そのすばらしいつぼはどこにある？」と王さまは夢中でさけびました。

「海の波がけっして打ちよせないところです」という答えでした。王さまが、それはどこかと聞こうとしたときには、知らない人はもういなくなっていました。

王さまは三人のかしこい人に、海の波がけっして打ちよせないところはどこかとたずねました。ひとりは「森の中」、もうひとりは「山の上」、さいごのひとりは「海のいちばん深いところ」と言いました。

王さまはかしこい人たちの答えについて、長いあいだ考えました。とうとう王さまは言いました。「エメラルドのつぼが森や山にあったなら、もうとっくに見つかっているはずだ。きっと海のいちばん深い水の中にあるのだろう。」

このインドの王さまは、えらい魔法つかいでした。王さまは海へ行き、魔法の歌をいくつも歌いました。「海の底までもぐれる人はいないが、もぐる人にできないことも、魔法ならできることがよくある」と思ったのです。

水の下の世界の王さまがその美しいつぼを持っていましたが、歌を聞くと、手ばなさなければならないとわかりました。「持っていけ」と、水の下の王さまは、いちばん深い水にすむせいれいたちに言いました。「インドの王のところへ運ぶのだ。空のせいれいたちがうばおうとするだろうが、魔法でこれを海からよびよせた王のもとへ、ぶじにとどくようにせよ。」

海のせいれいたちは、大切なつぼをかかえて、波の中からのぼってきました。

「それはわたしたちのものだ、わたしたちのものだ」と空のせいれいたちがさけびました。「インドの王には、ぜったいにわたさないぞ。」空のせいれいと水のせいれいは、たたかいはじめました。「なんておそろしいあらしだろう！」と地上の人々はさけびました。「ほら、いなずまが空を走り、かみなりが山から山へ

とどろいているよ！」人々はこわがってかくれましたが、それはあらしではなく、せいれいたちがエメラルドのつぼをとりあっていただけでした。

とうとう空のせいれいのひとりが、つぼをいちばん高い山のてっぺんよりも、もっと上まで運びました。「これはわたしのものだ」とそのせいれいはさけびました。「そうはさせない」と水のせいれいが言い、つぼをつかむと、山のごつごつしたてっぺんにおこって投げつけました。つぼはこなごなにわれて、何百ものかけらになりました。

東にも西にも、北にも南にも、あんなつぼはほかにありませんでした。ですから、インドの王さまはエメラルドのつぼを手に入れることはできませんでした。けれども、山に投げつけられたつぼのかけらから、いま地上にあるエメラルドがみんな生まれたのです。

たんご と クイズ　さいしょのエメラルドのおはなし

emerald エメラルド	**vase** つぼ・花びん	**king** 王さま
waves 波	**mountain** 山	**lightning** いなずま
thunder かみなり		

Q1 エメラルドはどんな色？

① まっ赤　② まっ白　③ 海の波や森の葉より緑

Q2 王さまは、つぼがどこにあると考えた？

① 海のいちばん深いところ　② 森の中　③ 山の上

Q3 人々が「あらし」だと思ったのは、本当は何だった？

① 王さまのいかり　② せいれいたちのとりあい　③ 大きな鳥のけんか

こたえ

Q1 ③ 知らない人は、エメラルドは海の波よりも森の葉よりも緑色で、だれも見たことのない石だと言いました。

Q2 ① 森や山ならもう見つかっているはずだと考え、海のいちばん深い水の中だと思いました。

Q3 ② いなずまやかみなりは、空と水のせいれいがエメラルドのつぼをとりあっていたからでした。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Raybrite（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。